

## 社会絡むみによる人づくりの「合言葉」

「育もう 地域の愛で 子供の未来」～ 大人が子供の手本となり、みんなで人間力を高めます ～

「1月は行く 2月は逃げる 3月は去る」といいます。冬休み明けには「1月から3月までは過ぎるのが速いですよ。今度から頑張ろう、明日からやろう、とと思っているうちに終わってしまうので、悔いの残らないように頑張りましょう。」と子供たちに話しました。進学、進級を控えて、3月までに達成させること、継続して頑張ることなど、1つ目標を決めて取り組んでほしいと思います。各学年でも、1年間を振り返りながら一人一人の成長をともに喜び、次への準備として学習や生活を積み重ねながら心身の更なる成長を図ってまいります。

さて、学校にいと、微笑ましく感じたり嬉しく思ったりすることが毎日のようにあります。嬉しいことです。先日、校庭の花壇に水やりをしていると1年生から声を掛けられました。「校長先生、そんなに強く水を掛けたらお花がかわいそうだよ。」と。「あ！…そうだねえ。…これでどうかな?」「うん、それだったらだいじょうぶ。」私はできるだけ遠くまで水がとどくようにとジェット水流にしていたのですが、子供たちにお叱りを受けてしまいました。感じる心を大切に持ち続けたいものです。

また、最近、自分から挨拶をする児童が増えてきたように感じます。特に6年生から声を掛けられるのは格別です。嬉しさに加えて安心感も伴います。卒業が近づき少なからず不安を抱いているであろうこの時期に「ああ、きょうも元気に登校してきたな」とほっとするのは、担任や友達との関わりを大切に、小学校生活を豊かに締めくくってほしいと思っています。

## ◇ 幼保小連携 ◇ - 1年 幼稚園との交流 -



1月28日(火)に、1年生が地域の幼稚園の子供たちと交流しました。「トントン相撲」や「お手玉」などの昔遊びを通して、来校した子供たちと一緒に30分間程度楽しく遊びました。お帰りの際には、園長先生から「子供たちも落ち着いた雰囲気の中で楽しく遊べたようです」との言葉をいただきました。最後に幼稚園の子供たちから質問を受けました。「学校にはけがをしたときに手当てをしてくれるところがありますか。」「学校では歯磨きをしますか」「全員がやるクラブ活動はありますか」「給食にパンはでますか」といったものです。入学を目前に控え、小学校での生活に関心を強めているようでした。

さて、少し話はそれますが、近年、幼児教育と小学校教育の架け橋期の教育の重要性が叫ばれています。幼児期の子供たちは、遊びや環境の中でたくさんのことを学び、力を身に付けていきます。ある研修会で、こんな話を聞いたことがあります。5歳児のクラスで劇の発表会をするときに、主役をどうやって決めたらよいか子供たちが話し合ったそうです。Aさんは「じゃんけん」、Bさんは「くじびき」、Cさんは「にらめっこ」と言いました。先生はCさんに「にらめっこ」の理由を聞きました。Cさんは「だって、「にらめっこ」だったら負けた人は笑ってるんだよ。」と答えたそうです。友達や周囲とのつながりの結果を予想し、意識したCさんなりの考えであったことが分かります。

幼児期から身に付いていく力は、主に、意欲や好奇心、忍耐力、頑張ろうとする力、思いやり、コミュニケーション力等の非認知能力(テストでは測れない数値化できない能力)と呼ばれるもので、小学校以降のあらゆる学習の土台となるものです。したがって、1年生の生活や学習は、入学前に培った能力を生かせるもの、更に伸ばすものでなければなりません。ところが、入学すると子供たちには机が用意され、時間割や教科書が与えられ、幼稚園、保育所とのシステムの違いに慣れることから求められます。これは仕方のないことではありますが、だからこそ、そのような環境の中にあっても子供たちの内面に蓄えられている非認知能力を表出させ、認め励ます教育が重要であると考えます。

ある1年担任が「挨拶はどのようにするとよいか」学級で話し合ったそうです。「明るく笑顔で…」「気持ちを込めて…」等、思いのほかいろいろな意見がすぐに返ってきたことに驚き嬉しくなったということです。子供たちは、それまでの経験から感じ考えていることをたくさんもっていたのでしょう。この教員が子供たちに称賛を与えたことは言うまでもありません。私は、子供の内面を引き出し、成長を感じ取った教員に感心しています。認め励ますことで、子供たちは新たな課題を発見し新しい方法を考えたり試したりしながら次に進んでいけるのです。この積み重ねが自己肯定感、自己有用感を育てていきます。入学前の子供たちはすでに「できる力」をたくさん身に付けています。この力を生かし、更に伸ばす教育が小学校のスタート期には特に求められています。

## ◇ 宮っ子「夢」教室 ◇ - 6年 総合的な学習の時間 -



1月24日(金)、28日(火)の総合的な学習の時間に、6年生が「宮っ子『夢』教室」に臨みました。これはキャリア教育の一環として実施されるもので、社会的・職業的な自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けられるよう、自分の生き方を見つめ将来とのつながりを見通すことを目的とする学習です。

子供たちは、エンジニア、商社に勤務する方、消防士、保育士の4組の職業人の講師の方から話を聴きました。仕事の内容や特色、社会に果たしている役割、やりがい、難しさ、苦勞などの説明とともに、その職業を目指した理由やきっかけ、職業に必要な知識や技能、資格を習得するまでの努力等についても、講師の方の体験を交えて話を聴くことができました。職業によって、あるいは同じ職業であっても人によって歩んできた道は異なります。小学校卒業を控えた節目の時期に多様な職業観に触れ将来の夢や目標を見つめ自分の生き方と向き合うことはとても大切なことです。こういった経験を重ねていくことにより、自分の職業観が少しずつ明確になっていくものと思われます。今回、4組の講師の方の話を聴き、子供たちが、個々に感じたことを将来へ向けての努力に生かしてくれることを期待しています。

4組の講師の皆様方には、お忙しいところにもかかわらず、丁寧に資料を作成しご準備くださり、ご来校いただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

## ◇ 来年が楽しみ！ ◇ - 3年 クラブ見学 -



1月23日(木)、3年生がクラブ活動を見学しました。クラブは4年生以上の子供たちで組織されます。興味や関心と同じにする異学年の子供たちの集まりによる活動です。自分の興味関心を追究したり、学年や学級の異なる友達と協力しながら活動したりすることで、個性の伸長を図り、自己効力感を高め、仲間意識を育むことを目的としています。

3年生の子供たちはこの時間を楽しみにしているようでした。笑顔を見せながら見学に出かけていきました。メモを取りながら「何クラブに入ろうかな」と、更に気持ちを高めているようでした。戻ってきた子供たちのメモを見せてもらうと、気付いたことや感じたこと、上級生へのあこがれ等、3年生の視点でしっかり記録されていました。4年生からの活動が待ち遠しいようです。

### ☆登下校のお願い☆

登下校中の児童の様子から、ポケットに手を入れて寒そうに歩いている姿が見られます。ポケットに手を入れて歩くと転倒時に咄嗟に手を出すことができず危険です。寒い場合は手袋などで防寒し登校させてください。また、道いっぱいに関き、道路の真ん中を歩いている姿も見られます。安全を守るため、学校では引き続き交通ルールの指導を続けていきます。ご家庭でもお話しいただき、安全な登下校を目指していけるようお願いいたします。

### ☆体罰等に係る保護者からの相談機会の設定について☆

宇都宮市では、教職員による体罰の根絶や教職員の指導力向上を図り、信頼される学校づくりを推進するため、体罰等に係る相談日を設けることとしています。本校の相談日は次のとおりです。

2月4日(火)・5日(水) 8:05~16:35 校長または副校長が対応します。